

令和3年度 第1回臼杵市総合教育会議 会議録

開催日時 令和3年11月12日(金) 10時00分開会(～11時45分閉会)

開催場所 臼杵市役所 全員協議会室

出席者氏名
臼杵市長 中野五郎
臼杵市教育委員会
教育長 安東 雅幸
委員 神田 岳委
委員 村上 睦美
委員 安東 鉄男

(事務局)

秘書・総合政策課長 安東 信二
総括課長代理 池平 勇人
秘書・総合政策課 主査 成田 裕樹
秘書・総合政策課 主任 岸本 侑己

(教育委員会事務局)

教育次長兼教育総務課長 後藤 誠也
学校教育課長 後藤 徳一
社会教育課長 川辺 宏一郎
学校教育課参事 麻生 幸誠

欠席者 なし

1. 開会
2. 議題

(1) 新型コロナウイルスが及ぼした影響について・・・学校教育課
・学力・体力の状況、不登校の状況

(2) 教職員の人材育成について・・・学校教育課
・西中3提言の取組

(3) ICT教育について・・・学校教育課

会議事項

- ・ICT教育の方針及びスケジュールについて
- ・ICT活用に関するアンケート結果について
- ・タブレット端末の貸与及び持ち帰りに関するルールについて

3. 報告事項

中学生と市長との意見交換会について・・・秘書・総合政策課
・11月2日(火)に開催した東中2年生と市長との意見交換会

4. その他

・学校におけるフッ化物洗口の状況について・・・学校教育課

5. 閉会

意見交換 (主な意見)

議題

(1) 新型コロナウイルスが及ぼした影響について

- ・学力・体力の状況、不登校の状況

委員

体力検査で中学生の体力が大分県、臼杵市ともに全国平均以下というのは気になる。

委員

臼杵小学校ではマラソン大会に向けて運動を多く取り入れたりするなど、いろんな取組をしています。中学校の教員に負担があるので、社会体育も活用して進めていただければと思う。

委員

大分県学力定着状況調査の偏差値が小学校は上昇傾向にあるが、中学校に入ってから下降しないようにするにはどうしたらいいのか、今後の課題となると思う。

事務局

小学生はトレーニングすれば学力が上がる傾向にあるが、中学生は、本当の興味、関心、または自ら学ぶ主体性とか意欲とか、そうしたものを身につけさせる必要がある。

市長

昔は暗記中心であったが、現在は「考える」ということを中心にしていることは、基本的には、とてもいい方向あり、一層定着するような形で教育環境づくりをしていただければと思う。

委員

国語の偏差値が高いのは、市が取り組む図書館専門員の全校配置が

(2) 教職員の人材育成について

- ・西中3提言の取組

教育長

「3つの提言」推進拠点校に指定した西中で育った教員（ミドルリーダー）が県下の学校で活躍することで若手の人材が育っていくと思う。

市長

教師という使命感を持ってやりがいのある先生がたくさん増えていくように、このような人材育成の取組を進めていただきたい。

委員

子供の情緒、体力、家庭環境も多様化しており、すべての対応を教員1人の指導が難しくなっている市民の理解と対策が必要ではないか。

(3) ICT教育について

- ・ICT教育の方針及びスケジュールについて
- ・ICT活用に関するアンケート結果について
- ・タブレット端末の貸与及び持ち帰りに関するルールについて

委員

タブレットの活用は、病欠欠席だけではなく不登校の生徒にも対応しているのであれば、大変良い方法であると思う。

委員

年配の教員には、もっと使い方とかをより詳しく教えるような時間を取ってあげて欲しい。

委員

ICTのタブレット活用は、ますます進化させて双方向で行っていただきたい。

事務局

今後の予想されるICT環境整備や活用については、学校及び家庭学習におけるAIドリルの活用や電子黒板の各教室への設置が学校現場への導入が考えられる。

事務局

先生が気になることや困りことに関するアンケートでは、36%の人が得意でないということで、3人に1人は不安を抱えているという結果となった。

(その他の意見)

委員

ヤングケアラーについては、教育委員会だけではなく関係部署と連携を取りながら、該当する対象者がいましたら多方面からの支援が必要である。

教育長

ヤングケアラーについては調査をいたしました。気になる件については、すべて対応ができるように関係課ともに共有している。

市長

ヤングケアラーについては、子ども子育て課も関連しますし地域福祉計画の中で、新しい課題としてありますので、十分検討して教育と福祉が一緒になって考えないとなかなか難しいと思う。

委員

小中学校のあり方について、地域の方の考えが一番ですが、有識者による研究、研修する機会や先進地視察があればありがたい。

教育長

校区の問題は、臼杵市公立学校のあり方庁内検討懇話会の中で考えていきたい。

開会
(事務局)
安東課長

それでは少し早いです、全員お揃いですので始めたいと思います。
本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。
私は、本日司会を務めさせていただきます。秘書総合政策課長の安東でございます。
よろしくお願いいたします。
会議を始める前に、本日1名の傍聴者がいらっしゃいますのでご報告いたします。
それでは、まず初めに前回の総合教育会議以降、新たに委員になられた方がいらっしゃいますので、本会議の設置について簡単にご説明をさせていただきます。座って説明させていただきます。お手元に配布しています、右肩に説明資料と書いているA4用紙をご覧ください。
平成27年4月に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が施行され、地方公共団体の長と教育委員会が、相互の連携を図り、より一層民意を反映した教育行政を推進していくために、すべての地方公共団体の長に、総合教育会議の設置が義務付けられました。
この総合教育会議は、市長と教育委員会の対等な執行機関同士の協議、調整の場という位置付けのもと、両者が教育施策の方向性を共有し、一致して取り組むことが可能となる会議となります。
また、赤枠で囲んでおります。本市における教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その基本理念や施策の根本となる五つの方針を定めた、「臼杵市教育大綱」を定めております。この大綱のもと、教育の課題及びあるべき姿などを共有しながら、連携して、効果的に教育行政を推進していくこととなっております。
総合教育会議の説明は以上であります。
それでは次第に従って進めて参りたいと思います。
では、令和3年度第1回臼杵市総合教育会議の開催にあたり、中野市長よりご挨拶をいただきたいと思っておりますよろしくお願いいたします。

中野市長

皆さんおはようございます。
臼杵市総合教育会議、今年度第1回の開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げたいと思います。
教育委員の皆様には、平素から臼杵市の教育発展のために、ご尽力いただいていることに対しまして改めて感謝と敬意を表したいと思っております。
また、安東教育委員は、今回初めての総合教育会議に出席ということで、どうぞよろしくお願い申し上げます。忌憚のないご意見をいただければと思っております。
一昨年でありますか新型コロナは足かけ2年の世界的な大流行ということで、日本はもとより、この臼杵もご案内のように、大変厳しい問題に今直面しているところであります。
ただ、8月ぐらいは、デルタ株が非常に感染力の強いということでありましたが、県民の皆さんのそれぞれの感染予防対策、そして各種団体・会社等の対応、何よりも医療機関の献身的な体制づくりと重なりまして、非常に今落ち着いている状況となっております。
大分県も、感染者ゼロが18日間続いていると思っておりますし、臼杵市も50日近く感染者ゼロが続いております。
これも感染の問題というよりも、それに対応する皆さん方の協力があって、このようになってきていると思っておりますので、大変良い方向で今進んでいると思っておりますが、これから第6派ということも、世界を見ると十分想定しなければいけないし、また、インフルエンザのシーズンに入っておりますので気を引き締めながら、皆さん方には、教育環境や教育施設等々で頑張らせていただいていると思っております。これからもどうぞよろしくお願いしたいというふうに思っております。
特に学校におきましても、この新型コロナ感染症拡大のリスクを低減するため、適切な感

染予防対策を取った上で1日も早く平常の学校運営、子供たちの生活に帰らせたいということで様々な努力をしていることに対しまして十分承知していますし、これからどうぞよろしくお願ひしたいというふうに思っております。

日頃から教育委員の皆様方は、コロナ禍という中、いろんな角度から現場の声を吸収しながら、全体として教育の運営経営にあたっていただいていることと思っておりますし、今のところ順調に学校や教育関係の様々の営みが今進んでいると私の方も報告を受けておりますし、よい方向でいっていると考えております。

でもそうは言いますが、コロナ禍で非常に社会経済活動が厳しい状況が直面して甚大な影響も出ているということもあります。そういう中で、可能な範囲内で感染予防対策をしっかりととりながら、日常生活を1日も早く回復できることを進めていきたいと考えます。

特に、議会の議決をいただいた美食クーポンとか、ふぐ割の第2弾を販売させていただきました。美食クーポンにつきましては、臼杵・野津両方の状況を聞いてみましたら、臼杵の場合は、発売と同時に2,000人ぐらい並んでいたようで、割り当てたクーポン券は臼杵、野津とも即売となりました。ふぐ割も段階的に発売して第一段階の12月末までの分は、ほぼ完売していることでありまして、皆さんが何とか、このような中でも街に出てですね、自分たちの行動を通して、地域の経済活動に参画することによって、お店等々に頑張ってもらいたいという気持ちの表れと思っております。

私も職員に対して、感染予防対策に十分気をつけて感染予防対策をとっている店を前提の上、そろそろ街に出ようじゃないかということで、この感染者ゼロのときに忘年会を前倒しに行くなどメッセージを出したところです。すぐに感染者ゼロとは、あり得ないと思いますので、いかにそれと付き合いをうまくしていくかという形で社会生活を実現してよい方向へ向かっていければと思っております。

そういう中、一番影響を受けているのは子供たちであろうと思っておりますし、家庭でも大きな課題を抱えているし学校現場もそうだと思います。日頃、なかなか見えなかったコロナ禍という状況の中で、それに向かって取り組まなければいけない課題等がはっきり顕在化してきたと思っておりますので、学校現場や家庭の状況等において、教育委員の皆さん方が把握している問題を我々に知らせていただいて共有したいと思っております。

一方で当面する課題として、ICT教育の拡充などあると思いますが、基本的には、子供たちにしっかりと学力をつけて充実した義務教育を過ごし、いかに次のステップに送り出すことができるかは我々の課題であると思っております。

その辺のところも含めてですね、いろんな地域の教育課題とか、あるべき姿を共有しながら、皆様と忌憚のない意見を交換する場にしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

大変忙しい先生方でありまして一応、11時半ぐらいを目安にして会議を進めていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局)
安東課長

ありがとうございます。

それでは早速、議題の方に移らせていただきたいと思います。議題の進行の方も中野市長にお願ひしたいと思っておりますので市長よろしくお願ひいたします。

中野市長

それでは私が進行役させていただきたいと思います。

それでは現在の取り組み状況として、本日は3点の議題についてそれぞれの担当課から説明を受け、意見交換を行いたいと思っております。

なお本日の議事は、記録をとりますので、ご発言される委員さんは、挙手の上、マイクをお持ちになってご発言いただきたいと思いますというふうに思っております。

それでは議題の(1)であります新型コロナウイルスが及ぼした影響について、学校教育

学校教育課
後藤課長

課より説明をお願いいたします。

学校教育課長の後藤です。よろしくお願いします。

新型コロナウイルスが及ぼした影響として、項目にもありますが学力・体力、あと不登校の状況を説明していきます。

学力については、今年度実施された県の学力テスト及び全国学力テストの状況説明です。資料1をご覧ください。小学5年生と中学2年生で実施された県主催の学力テストですが、左上にあります偏差値で表示されています。50以上が全国偏差以上ということで黄色示していますが小学校はすべてクリアしております。

次に中学校は、数学が「知識」も「活用」も少し下回りました。理科・英語については「活用」が下回りましたが、理科と英語は教科としては50をわずかに超えている状況でした。

平成24年度からの経緯を中段に左から載せています。上の3段が小学校、国語・算数・理科、下の5段が中学生の国語・数学・理科・英語・社会ですが、だんだん右に行くほど黄色が増えているように上昇傾向にあり、ここ数年はずっと偏差値50を超えていましたが、先ほど申し上げたように一番右側の令和3年度は、数学がわずかに下回っており課題としてとらえ学校現場とともに取り組みを行っております。

コロナ禍による影響という視点ですが、他の教科は超えているので数学が下回ったのが直接コロナの影響であるかは検証が必要であると考えております。

2ページ目は、教科ごとの推移であります。下段の小学校の教科ごとの推移では、青線が県、赤線が臼杵市となっておりますが、県も臼杵市も偏差値50は概ね超えており、それ程悪い状況にはないと考えております。

続いて、次のページは中学校の教科ごとの偏差値の推移ですが、県と市が同じように上がったり下がったりしている状況があります。

繰り返しになりますが、中学校の数学が今年度偏差値50を下回ってしまったことから、数学を中心に対策を行っている現状であります。

次のページは、小学校6年生、中学校3年生を対象にした全国学力テストの結果です。調査科目は国語と算数、数学ですが、小学校は赤、中学校は緑と折れ線グラフで示しています。左側に28ショックと記載していますが、平成28年度はすごく悪い結果でありました。下段の表記しているピンク部分ですが、夏休み、冬休みに臼杵市全体の小学校で統一の課題に応じた宿題を作ったり、中学校では5中学校そろえた補習問題をしたりと取り組みを進めていき、平成29年以降は全国の平均を超える年が続いていました。

ただ今年度、一番右ですが小学校の方が、平均を下回っているという結果になっております。小学校6年生のテストであります。小学校5年生の結果は県のテストでもそんなに悪くないので取り組みをしっかりとやっければ、来年は、また持ち直すのではと考えております。中学校はプラス3.2で、18市町村と比べるのも変ですが、今年度は4番目あたりの成績でありました。

続いて、体力の状況です。プリント縦向き5ページは、小学校1年生から中学校3年生の男子の結果を記載しており、上から握力、上体起こしと項目がありますが、黄色になっているのは全国値を超えた部分を黄色に着色しております。

ただ、全国値については今年度まだ発表されておられません。これは県からいただいた資料ですが、コロナ禍前の全国値となっております。コロナ禍前の全国値と比べて、超えているのを黄色に着色していますが、左側の小1から、だんだん右に小6まで移りますが、小学校は、比較的良好な結果ではないかと考えております。

中学校の男子ですが、黄色部分が少ないように、臼杵市そして大分県ともに、コロナ禍前の全国値を下回っており、詳しい分析が全国的もできておりませんが、コロナの影響が

少しはあったのではないかと推測でしかありませんがそのような状況であります。

次のページは、同じような資料で女子の体力測定の結果になります。同じように、左6列の小1から小6までは、かなり良い結果になっていますが、右3列の中1、中2、中3については、臼杵市も大分県もコロナ禍前の全国値をわずかに超えています。また、詳しい分析等が国の方でも公表されると思いますので機会をみて報告していきたいと考えております。

7ページ目は、不登校の状況についてです。平成27年度から今年度の9月までの結果をまとめておりますが、国、県、臼杵市の値を表示しております。

なかなか比べることができないので、県の話し合いでも千人当たりに換算した数字をもって私たちは対応しております。

上段の小学校ですが、はっきりと傾向がわかります。平成27年度から国及び県の不登校の人数を見ていただければ平成27年度から令和2年度まで、毎年不登校の児童が増えており確実に増えているという状況にあります。そうした中、ピンク部分の臼杵市であります。国や県の半分ぐらいかなという状況で臼杵市の場合は、割合が右肩上がりに増えているという状況には今のところ至っていないと考えております。

下3列、中学校であります。中学校においても国、県は確実に不登校の生徒が増えています。臼杵市の不登校の状況ですが、青い表示をしております少し割合的には増えている傾向にあり対応はしていますが、少しでもこの数字が伸びないようにということで関係職員とともに対応を続けている現状があります。

以上で説明を終わります。

中野市長

はい。ありがとうございました。

新型コロナウイルスが及ぼした影響について現状のデータを紹介していただきました。

この件について何か意見等ございませんか。委員さんもこういう状況を教育委員会から報告を受けていると思います。また逆に私に報告あるいは聞かせた方がいいと思う意見がありましたら、どうぞ、自由に発言をお願いします。

村上委員

説明ありがとうございました。体力検査で中学生の体力が大分県、臼杵市ともに全国平均以下というのは気になりました。

そのところは、先生方も考えてくださっていると思いますが、私はその最後のページの不登校の現状がコロナ前後では、あまり大差がないことの方が気になりまして、先般、学校訪問をさせていただきましたが、休んでいる生徒にとってタブレットで授業の内容を、自宅に居て見られるようにしている学校が2校ぐらいあったので、それは、病欠欠席だけではなく不登校の生徒にも対応しているのであれば、大変良い方法であると思いました。

それによって、ただ授業の内容を見せるだけという状況の外、もしタブレットを使って先生から話しかけたりとか、子供たちと話すとか、もしできるようになれば、この不登校も何名かが、もっと学校に行こうという気になればいいなと思いました。コロナだから、この人数が休んでいるとは思わないのですが、不登校の生徒に対して、そういうふうな対応をしてくれたらいいなというふうなことは思いました。

中野市長

はい。ありがとうございました。

不登校生徒へのタブレット活用の話ですが、不登校の生徒に対するタブレットを使った授業について、後で説明がありますか。

学校教育課
麻生参事

ありません。

不登校の児童生徒を対応につきましては、6月だったと思います。先生、学校からです

ね、不登校の児童生徒で何とか学力保障をしたいということで相談がありまして、まだその当時、持ち帰りを想定してルールづくりを行っておりました。

臼杵市ICT教育推進協議会と各学校の先生と調整しながら、積み上げていくということでかなり時間を要しましたので、ルールができる前に不登校の生徒を、特例で先に持ち帰ってもらうという許可を出しました。フィルタリングとセキュリティに対するソフトが入っておりませんので危険なサイト等には十分注意するよう指導を必ず行うという条件付きで、先に持って帰ってもらいました。でも学校とのやりとりとかに限定して活用をしていただくようにしております。以上です。

中野市長

先行して行っていただきありがたいことだと思います。

この件が子供の学力とうまく繋がっていますか。どういうふうに把握、評価していますか。

学校教育課
後藤課長

今学校に来られない児童生徒への貸し出しということで、やはりプラスの面が確実にあると思っています。

また今、学校に来られてはいるけれど、教室に入れない児童生徒もいて別室登校という状況もありますが、別室にいる生徒にも授業を見せることができる。そうしたことから、タブレットが有効だなと実感しています。

村上委員

授業内容を見せるのはすごくいいなと思っておりまして、実際の現場で昨日も拝見しましたが、まだちょっと対面式というか、一方的に発信するのみなので、先生が休んでいる生徒に対して何とかさんを聞いていますか、分かりますかとか、そういうふうな応対式というか、対応できる方式にだんだん変えていかれたら、Zoomとか入れたらできるのではないかと思ったので、せっかく立派なことをしているのですから、声かけができるような方法とかを取ってもらえるようにしてくれたら、もっと活用できるのではと思いました。

中野市長

はい。麻生参事それに対して何かありますか。

ご意見ありがとうございます。今の対面式といいますか、オンラインの授業配信とか双方向で、意見をやりとりするところではありますが、8月後半からコロナの第5派が急激に広まりまして、市内の学校でもやむを得ず登校できない児童生徒が出てきております。それを踏まえまして先ほどの不登校に続きまして、コロナの影響で学校に来られない子供たちに対しても、タブレットの持ち帰りを許可する通知をいたしております。

各学校です、授業全部の時間というのは容量的に無理であります、1日のうち1時間ないし2時間とかです、授業のオンラインでの配信とか、ロイロノートという授業支援アプリがあります。それで課題を送って、それをまた提出するというのがネット上できるというところもありますし、授業の板書をその子供に送ってあげるといってもありますので、ロイロノートを通じましてオンラインで、意見のやりとりでもう教室にいるのと変わらないように、他の教室にいる子供たちと変わらないような授業の参加もできるということで、家で参加できるということも学校で取り組んでいただいております。Zoomもほぼ全部のすべての学校で研修を受けまして、やり方等をマスターしていただいておりますので活用いただいているという状況であります。

中野市長

その説明で良いですか。

村上委員

はい、わかりました。

中野市長

安東委員どうぞ。

安東委員

安東といいます。よろしくお願ひいたします。今回、初めての参加でございます。教育委員会でも何回かお話させていただきましたが、やっぱりコロナ禍で運動不足ということの課題が挙げられます。小中学校においても、なかなか運動する機会が奪われているという状況がありました。

後藤課長が説明なさったように女子が思春期を迎えて月経が始まるとどうしても、運動離れというのが進むということで、将来的には骨密度の獲得が成長期までに、ある程度達していなければ、閉経以後がぐんと骨密度が落ちて、骨粗鬆症それから平均寿命にも関わるということで、若い時の特に小・中学校時の運動というのを推進していただければということ、常々お話しさせていただきました。

その中で、臼杵小学校ではマラソン大会に向けて運動を多く取り入れていること、また運動ではありませんが西中学校では、授業時間に合唱をしておりコーラス部がしていると思ったら普通の授業で、はつらつと子供たちが歌っていたということに私自身は感銘を受けました。

こういった取り組みをさらに進めていただければと思います。なかなか中学校の教員に負担があるので、部活動というのが難しくなっているかと思いますが、どうか社会体育も活用して進めていただければと思います。

それから、ICTのタブレット等の活用についてですが、小中学校を見させていただいた限りでは、もう各学年ともほとんど活用されて生徒がそれを使って進行から評価まで生徒自身で行われていたという授業もございました。ますます進化させて双方向で、やればいかなど思っております。それから不登校については、少し教育センター「きずな」の利用が増えたと聞いておりますし心配されますが、臼杵の方は充実しているのですが、野津は利用する児童が少ない関係もあって少し利用者が少ないかなという心配がございますが、これも職員の数ということもありますけれど、野津地区の方も、もう少し充実させていただければと思っております。

学校訪問に関して、この会議の直前に2日ほどフルに参加させていただいて本当に現場が分かってよかったと思います。思った以上に子供さん、非常に落ち着いて授業態度も良く、服装もきちんとしていて以前、どこどこは落ち着きがないとか聞いたことがありますけど、見る限りそんなことはなくて先生方も工夫を凝らしてやっていたなあという印象を受けました。

中野市長

はい。神田委員、何かありますか。

神田委員

はい。これ不登校児童は不登校傾向も入っている数字ですか。

学校教育課
後藤課長

不登校生徒は累計の欠席数が30日を超えると、もう不登校という扱いになって中には回復している生徒もいますがポイントが上がっています。

神田委員

ありがとうございます。

これ、教育センター「きずな」は出席扱いで、30日含まれますか。

学校教育課
後藤課長

含まれません。

神田委員

わかりました。ありがとうございます。

それと資料1の1ページありますが、小学校5年生と中学校2年生なので、私は平成24

年度も教育委員しておりましたので、この時はショックを受けたような気がします。この小学校5年生が平成27年度の中学校2年生ということでよろしいですね。この調子でいくと、やっぱり改善できているのは、国語は改善できていて逆に算数は少し下がっていて、理科はかなり改善しているような状況にあると思います。

気になるのが、近年こう見ていくと、やっぱり小学校5年生の時には、例えば平成30年度の小学校5年生の理科は52と偏差値で言えば、かなり高い状況にはありますが、中学校では、令和3年度の理科は50.1ぐらいになって、やっぱり偏差値が下降傾向にあるような気がしているので、やっぱり、中学校に入ったときにもある一定は平均値を保つかもしくは偏差値はなかなか難しいけれど、上昇傾向が見えるような部分がなければいけないと思っています。多分、来年の中学校2年生の偏差値はかなり高い数字を呈してくることは、この資料から見ると、予想はできるのですけれど、全体的にやっぱり小学校5年生の数値が上がっている所以今後、数年はいい状況が続くと思っていますので、市長もご存知の通り小学校がいろんな問題を抱えた子供たちが多いところがありましたけれど、それが先生方の努力とか、教育委員会のスタッフの方の細かい心遣いとかで、大分上昇傾向が出ているのが、この数字ではわかると思います。これが下降し、中学校に入ってから下降しないようにするにはどうしたらいいかなというのが、多分今後の課題にはなるのかなと思います。

中野市長

課長何かご意見ありますか。

学校教育課
後藤課長

その件に関しまして、大分県全体が、依然小学校が良くて中学校が悪いという実態があり、小学校は、ちょっとトレーニングしたら上がる傾向があります。

ただ中学校は、その手法では通用しない。本当の興味、関心、または自ら学ぶ主体性とか意欲とか、そうしたものを身につけさせる必要があるということから、臼杵市も県全体も、自立した習慣とか、より主体性を重点に置き、神田委員がおっしゃるように変えつつあり、それに乗り遅れないように、取り組みを充実させていきたいと考えています。

中野市長

はい。ありがとうございます。

先般私も、東中学校の意見交換会を授業の雰囲気を見させていただきましたが、我々が体験した頃の授業と全く風景が変わってきて、よく言えば、昔は暗記中心でありましたが、現在は「考える」ということを中心にしていることは、基本的には、とてもいい方向だと思います。一層定着するような形で、学校の現場の先生達も頑張っていると思います。特段の努力、教育環境づくりをしていただければと思います。やっぱり生きる力とかいろいろ言うけれど、私は、義務教育によって基礎学力をしっかりとつけるというのが確信だと思います。単なる感想ですが、体力が落ちているのは、例えば、一つは部活に入っている子供が非常に減っていることで、スポーツ運動の機会が結果的に減ってきて体力が落ちているという面もあると思います。もう一つは、それぞれ体育の先生がおりますが体力が落ちている生徒がいり中で、学習指導要領ではどう対処するのか分かりませんが、子供の体力が落ちていることを前提に体力をつけていくための、体育の授業をどう組み立てていくのかということも、少し気になりました。もう一点、不登校問題について私も市民の皆さんと会う機会がありまして野津地域の高齢の方から話があったのですが、自分の孫が不登校になって、両親が共働きで面倒を私が見ているけれど、難しい問題もあって、その時に学校の先生が親身になって心配してくれて、いろいろと声をかけてくれたのは、本当にありがたかったと言っていました。そして安東委員の発言の野津地域の不登校問題は、教育委員会で話す機会があると思いますので、そちらの方で情報共有していただければと思います。

それと、全国テストの中では、生活習慣もデータが出てくると聞いたことがあります、また読書活動についてデータがあれば、後日教えていただけませんか。

それでは時間限られていますので、次の議題（２）の教職員の人材育成について、学校教育課よりお願いします。

引き続き、資料２の総合教育会議資料と書いていますが、これは人材育成拠点校の西中学校の取り組みをまとめたものです。西中学校は人材育成の拠点校と位置付けて、今年度で５年目になります。表紙では、西中SDGsにも取り組む力を入れており、もらった資料なんですけど、SDGsも意識しながら、日々取り組みをしているという学校となります。

今日発表させていただくのは、三つの提言推進重点校という項目でありまして、そもそもこの三つの提言推進拠点校というのは、県下で７中学校が指定されております。大きな市を中心に、大体１校ずつ、臼杵市も１校ということで安東教育長が西中学校長の時に指定を受けた状況であります。この指定を受けると、加配と言われる教員がつくので臼杵市の中学校の教員は、少し定数よりも多い状況になっています。

三つの提言として青で表示されていますが、「授業改善の推進」、「教員の指導力向上」、「生徒と共に創る授業」といった三つのことに取り組んで本市だけではなく県下に発信して欲しいという指定校であります。なぜ県がこのような指定をするのかというと、教職員の大量退職、大量採用時期を迎えて、若い世代と中堅教員を育成する必要があるということから、この三つの提言を掲げ推進拠点校の取り組みが行われています。

具体的な状況が２ページ目からになりますが、上段は西中の教職員の年齢層を示しています。大分県全体の縮図ともいえる西中でありまして、現在は、50代の教員がほとんどで、10年後にはもう、若い教員に入れ替わざるを得ないという右側になりますが、もう30代も採用がほぼ済んでいるので本当に若い世代から取るしかないという状況になっています。

こんな状況から、若い世代、また30代、40代のミドルリーダーと言われる世代を育成していこうと取り組みを進めていまして、下段では、教員の資質・向上を目指した研修における育成基準であります。

教員の育成基準では、最新版が右側のオレンジの部分ですが、30代、40代のミドルリーダーについては研修を通じて同僚に指導・助言ができるようにしております。

西中におけるミドルリーダーの若手教職員の育成についての具体ですが３ページになります。少し小さくSD研修と書かれたセルフディベロップメント、これは自ら発展していくという意味でありまして、中堅層ミドルリーダーが主催した研修会で、企画運営する能力をミドルリーダーに身につけさせたいという目的があります。

また下段は、ミドルリーダーが授業指導している西中の様子であり、他校からも若い教員が参加しており、こうした取り組みが、臼杵市の中学校において西中が拠点校という関係から、他の中学からも参加者がいる状況があります。以上研修の状況です。

次の４ページ、西中学校の取り組みですがタテ持ちと書いています。私が若いころ中学校の教員をしていた時には、例えば、中１の数学の先生は後藤と中２の数学の先生は荒木、中３は斎藤先生というふうに、学年の担当の先生がある程度決まっていた３年間持ち上がるというスタイルで、教員の中では横持ちと呼んでいましたが、現在、西中が取り組んでいるのはタテ持ちといって、例えば理科であれば後藤という教員が１年、２年、３年を持つこと、その下段、英語の半田という教員も、１年、２年、３年を持つことで、例えば、１年生の教員が３人いれば、３人で高め合えると有益なプリントは交換できますし、教材研究も共同でできるということで、このタテ持ちという形で西中は取り組みを行っております。教員が１コマに２人になっているのは、若い先生はセットにしてティームティーチング等で行うことで若手の育成を行っています。研究会の様子が４ページの下に写真を載せております。

５ページ上段ですが、これは教科部会ということで学年あたりの教員が複数いることから、授業の流し方について、研究している様子となります。続いて、下段にあるのは、生徒

と共に創る授業ということで、教員と生徒が話を進めております。

先ほど神田委員からもありましたけれど、生徒の主体性を引き出さなければ本当の学力が身につかないということから、写真にありますのは中学校の生徒会がみずから学習目標を立てて取り組みを進めていこうとしているものです。西中の大きな学習目標は学びに向かうとなっています。

次の6ページですが、生徒会の学習部が自分たちの学習規律を決めて、なおかつ日々の取り組みを、自分たちで評価していくチェック表等を作って生徒自らが検証して改善していく取り組みを行っております。

さらに下段ですが、これは生徒と共に創る授業アンケートで全校生徒にアンケートを年間4回行いながら取り組みを行っております。

少し書いていますが、質問項目が例えば3番ですけど、授業の初めに「授業の流れ」が示されていたとか、4番の自分で考える時間があつたとか、これは生徒にアンケートをさせることによって教員の授業が生徒にある意味、評価されること。生徒から見た教員の授業の状況を把握できるものになっております。また9、10番にありますけれど、生徒自身もできていたか自己評価するアンケートになっております。

そのアンケート結果が7ページ上段にあります。見える化をしようということでグラフ化しております。年間4回のアンケートを行っていますが、例えば左側、美術がオレンジになっていますが、1回目は数値が低くなっており、教員も反省したのか段々と上昇しているのがグラフから分かると思います。

またアンケートには、生徒の自由記述の欄があり自由記述から生徒の生の声を聞くことができるようになっており、その結果が7ページ下段にあります。結構厳しいことが書かれております。黒板の字をもっときれいに書いてほしいとか、ノートをまとめる時間がもう少し欲しいとか、そうした生徒からの声も聞きながら授業改善に努めている実態があります。

最後8ページになります。先ほど市長からあつた全国学力学習状況調査の結果の一部ですが、西中の6項目を記載しています。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目など全国値を超えております。

特に私も驚きましたけれど、ICT活用の項目の西中80.1%は100%と思いましたが、全国値の方が結構低いと思えました。下段は今後の取組ですが令和4年度は、若手を育成できるミドルリーダーが加配としていければ、確実にOJTが進むことを発信していきたいと考えております。来年、1月末に岡山県の教育委員会が西中学校を視察することにもなっています。今後も生徒も教師も学び続ける臼杵市の小中学校であって欲しいなと思ひ報告を終わります。以上です。

中野市長

はい。ありがとうございました。

この件に関しては、教師同士で頑張っていただいて授業が十分成果を上げて市内の各学校に波及していくような仕組みを作っていただくとありがたいと思います。教育長、何か意見がありましたらどうぞ。

安東教育長

ちょっと西中学校生徒が落ち着かない時期がご存知通りありまして、少し落ち着き始めた時に、アンテナを高くしていたら大分県が推進重点校を作りそうだということがありまして、いろんな働きかけをする中で平成29年度に生徒指導が落ち着き、次は生徒の学力を上げる、先生方の授業力上げるしかないということでお願いしたところ、推進重点校に指定していただきました。3年間で県はスクラップアンドビルドで入れ替えるのですが、3年目の時に臼杵市に大分県教育委員会がお見えになって、県教育長と意見交換したことを覚えています。その時に私がお願いしたのは、この3年間取り組んでみて、「新大分スタンダードの徹底」、「指導の仕組みの構築」、「生徒と共に創る授業の推進」この三つの提言を実施する中

で、四つ目のいいことがあったと。それは先生方が育ったことで、次の3年間は、人材育成の拠点校としてのミッションを与えていただいて継続して欲しいという意見を出させていただきました。その結果、令和2年度からも継続事業となり拠点校ということになりました。今拠点校には、市外からもたくさん先生方が来ていますが、この研修はもう本当に大変です。タテ持ちにしたら、1学年の授業を自分で教材研究すればいいのを3学年、毎日勉強して授業に向かわなければいけないというのは、もう大変なことではありますが、そこの反対を押し切って成し遂げることで若手が伸びてきている、若手からの質問が、ミドルリーダーにとって心地よさを感じているようで、これが進みだすと、すごく若手が伸びていくのだからという実感もあります。これから西中から外の学校に出て、その先生たちがその学校で拠点になっていくことも考えられ、県下でサイクルしていくことで若手の人材が育っていくと思います。以上です。

中野市長

この件で先ほど学校教育課長が説明した資料2ページの先生の年齢構成ですが、ある意味愕然しました。時代の中でこういうことは起きるのでしょうかけれど、一番心配しているのは教員の競争率が2倍を切るという、とても信じられないような話が起こっていることです。でも現実だと思います。教える環境が非常に厳しくなっているとか生徒の親のことで、先生たちが精神的にきついと情報が入ってきて、若い人にとって先生の魅力がなくなっているのではとっております。

それは働く環境の問題とか待遇の問題とかもあると思いますが、子供の立場から見るといい先生に出会った時の、その人の人生の開き方って全然違ってくるので、教師というミッション、使命感を持ってやりがいのある先生がたくさん増えていくというようなことを、臼杵市だけの問題ではないですが、こういう状況を見た時にいろんな意味で考えないと、結局、人がしっかり育つ、育てるということは、人材育成の切り札になっていくと思うので、こういう人材への育成ということをこれからもぜひやっていただいて、やる気もあって実力があるいい先生、そしてそういう先生と出会えて、自分の人生が切り開かれたとかいうような子供たちがたくさん出てくるように、ぜひお願いしたいと思います。

それと8ページの生徒の質問の中で、特に今言ったコンピュータもありますが、東中、その前が野津中にも行きましたし、南中にも行きました。それぞれの地域の学校が地域に開かれた地域に根差した教育とか総合学習を通じてやってきているというのが、そういう中で子供が臼杵とか、自分が住んでいる地域に対する関心というのは非常に高いとわかって、ありがたいなあと思いました。4番目の「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがありますか」について、全国43.8%、西中が62.1%と度々20%ぐらい高いことは大変我々にとってもありがたいし、子供にとってもいいことだと思いますので、地域に根差した教育、地域に開かれたってということもあるんですが、ぜひこれからも進めていただければというふうに思っています。来年は北中ですかね、来年も楽しみにしていますので、北中の子供たちが臼杵のことや地域のことを一生懸命勉強したこと、私にぶつけてくれることは、これからも、進めていただければと思います。

中野市長

それでは、3番目の(3)ICT教育について、学校教育課より説明をお願いいたします。

学校教育課
麻生参事

それでは私の方から説明をさせていただきます。お手元にあります資料、使用いたしますのは資料3、資料4、資料5の3つを使って説明をさせていただきます。

初めに、資料3です。これは市長に対しましては運営計画で、教育委員の皆様には、先般の定例教育委員会で説明をさせていただいたものですのでポイントのみ、確認の意味でさせていただきます。

まず、この資料3についてですがICT教育の推進方針と体制の相関を表しているものです。何を指しているかというところが上の赤枠で示している児童生徒の問題解決能力の育成ということで、この変化の激しい時代を生き抜いていく答えがないかもしれない。一つじゃないかもしれない。そういった中の社会で生き抜いていくというところで、大学の入試や学習指導要領も、このような能力も求められる内容に変わってきています。ICTを活用することによって、こういう能力が効果的・効率的に高められるということで国がGIGAスクール構想ということを出し出して、今強力に推進しているところであります。

本市におきましても、下段の緑部分、児童生徒が1人1台タブレットを配布しており、タブレットを活用してグループ討議でありますとか、発表でありますとか、前のモニターに皆さんの回答や意見を共有できるというところで、なかなかボーッとしていられないというような参加型の授業に変わっていきます。

こういった授業になりますと、それがうまくいくかどうかのキーは教員の方だと考えています。今まで知識を授ける先生から、そういった授業をコーディネートして導く役目のファシリテーター的な位置付けに先生がなると考えています。IT機器が入りまして、ちょっと前倒しで入った関係で先生方も戸惑い、不安があると思います。後ほど、アンケートの方もありますのでご紹介したいと思います。

そういう先生方の困りに対しましてサポートしていただくのはICT支援員です。昨年度1名の体制から今年度、4名の体制で各学校のサポートに当たってくれています。かなり昨年比まして、学校に行ける回数が増えておりますので、手厚いサポートがよりできるようになっております。ページをめくっていただきたいと思います。

2ページ目は、令和3年度、令和4年度のスケジュール感であります。左側は、令和3年度、右側が令和4年度になっております。1人1台端末をどのように活用をいかにするかというところが、ポイントになりますけれど、先生方、子供たちも、まずは、どんどん使っていくと、使いこなしていくというところですが、学校で使う、そのあと持ち帰りについても、コロナの感染拡大等で必要になってきました。

当初、教育委員会の中で、夏休みに、試験的に持ち帰るスケジュールで準備しようということで実施しました。実際に7月20日の夏休みから、夏休みをすべて1ヶ月、期間を設けて9月30日までの間に、各学校1回は必ず持ち帰るというルールで、持ち帰りを行いました。これによって、アンケートで出てきますが、わかったこと、気づいたことがあります。家でのタブレット管理とか、保護者へタブレット活用の理解を深める機会になったものと考えております。

先ほどコロナ禍の児童生徒への対応にも言いましたけれども、家庭と学校との課題のやりとり等ですね、この計画では令和4年度には、それがスムーズにできるようになって、もう当たり前ができるようになると考えております。

ゆくゆくは、今県立高校がしている様に、毎日持って帰る毎日学校にまた持ってくるというような時代になろうかと考えております。そのために、持ち帰りをを行うという前提で進めていきます。ですからインターネットを介して、課題のやりとり等を確実にできるようなスキルを高めていくということが求められています。

資料の3ページをご覧ください。

これが活用例ということで、学校と家庭でどういったことができるのかというものを示したものであります。

左側が学校での使用、右側が家庭での活用です。先ほども申し上げた点もありますけれども、リモートで遠く離れたところと社会見学ができること、遠くの学校と交流ができること、自分の体育の様子を動画で撮って確認できること、図形を見ながら皆さんの考えを共有できるということ、視覚的によりわかりやすいこと、あと距離とか移動の制約を受けないことなどICTの強みかなと思っております。

右側の家庭での活用については、長期休暇の対応、アプリが数多くいろいろな業者から出ております。先ほどの夏休みを持ち帰るときも、無料でできるアプリをあらかじめ小学校向け中学校向けにインストールした上で持ち帰っていただきました。

ここにあるような、暗算をゲーム感覚で能力を高めるようなアプリとか、都道府県を覚えていくアプリ等もかなり子供さんには好評でした。後ほどアンケートでまた紹介いたします。新たに追加させていただいた部分があります。一番下にピンクの点線で囲んだ部分です。今、タブレットが配布されてリモートでいろいろ家庭とのやりとりができた次の段階を考えております。次の段階に予想されるICT環境整備や活用については全然未定であります。一つは、学校及び家庭学習におけるAIドリルの活用ということで、タブレットを使ったドリル、これも学校の先生がいちいちタブレットにインストールしなくても、市販化されているものが数多くあります。もう一つのことは電子黒板の各教室への設置です。

この電子黒板の良さについては、通常黒板に板書しなくていいということもあります。画像の上に直接部タッチペンで説明書きを加えたり、立体的に図形を見れるとなど、また動画をそのまま流せるとかいうことでモニター的な使い方もできますし、ホワイトボード的なことも使えるということで、もうすでに導入している自治体も増えております。

この二つが、次にその学校現場に入ってくるのではないかと考えられます。

次は4ページをご覧ください。ここから小学校、中学校で実際に写真を撮ったものの風景であります。小学校については、各教室で白杵の特産物を自分が勉強したことを生徒の前で発表する。それとあと、ひまわりの観察とかアサガオの観察、実際に外に出て写真を撮ったり、いろいろ記録を取ったりタブレットを持ち歩いて活用しているところでもあります。

中学校については、もう各教科の学習で使うということですが、先生自身もスキルを高めるということで校内研修を定期的に行っていただいています。特に西中は進んでおりますので他校の先生も参加できるというようなオープンにすることで市内全体のレベルアップが図れるように配慮いただいております。

6ページをご覧ください。上下写真があります。これはロイロノート・スクールという授業の支援アプリの様子です。例えば、下の画面では、名前が上に書いていまして私はこういう意見ですということで、表示がされています。それと黒い部分については、その人が提出、意見を出していない生徒は、黒で表示されています提出すると白に変わったりします。

その意見の集約が上のグラフになって、リアルタイムで、挙がってくるということで先生は、何々君まだ出てないとか、何々さんはまだ出てないとかいうのが一目でわかりますのでフォローに入る児童生徒については、こういう考え方もあるんだなということで気づきを得ることができますし、意見を見て自分の意見も修正するというような取り組みもされているところでもあります。振り返りができるということでもあります。

次に資料4をご覧ください。ICT活用に関するアンケートです。先生が気になることや困りことがあるのではということでアンケートをとりました。円グラフがありますが、36%の人が得意でないということで、3人に1人は不安を抱えているという結果でありました。

これは年度末に、また追跡調査で同じことをしてどれくらい上がっているかというところを検証したいと思います。今後、行って欲しい研修サポート内容というのが、その下にあります赤枠で囲っている回答に概ね分類されております。iPadの使い方、Zoomとか、ロイロノートとか、それぞれ個別の使い方を教えて欲しいとか活用例を教えて欲しいという意見が目立ちました。

次のページをご覧ください。これは活用したい内容をということで意見を出してくれています。これも同じように、授業の中で、例えば理科の観察に使いたいとか、合同授業をしたいとか、動画の編集でオンライン遠隔授業とか、学習支援アプリ、ロイロノートですが、そういうもので活用したいというような意見が出ています。

次の3ページは、困りや不安についてです。これも赤枠で項目ごとにしております。授業

への活用に関してと、管理運用に関してということでもあります。それぞれ不安な部分を挙げていただいています。管理・運用に関しては、次のタブレットの持ち帰りに関するルールということで後ほど説明します。では次の4ページをご覧ください。持ち帰りについてのアンケート結果です。これは小学校の集約です。夏休みということで、長期の植物の観察であるとか、先ほど言ったアプリでの学習、絵日記とアプリならではのものと取り組んでおります。夏休み持ち帰りした児童生徒の感想については7ページをご覧ください。楽しく課題に取り組めたとか、レベルが上がるのが面白い。また持って帰りたいなど意見をいただきました。概ね肯定的なご意見をいただきました。

中学校の方の意見については、9ページをご覧ください。自分よりも母親が夢中になって、漢字のアプリをしていたとか、保護者も一緒に活用した家庭もあるなど、普段勉強が嫌いな自分でもゲーム感覚でできるからとても良かったという意見もいただきました。

アンケートについては以上です。

次に資料5については、タブレット端末の持ち帰りについて、家庭で持ち帰るのでルールを決めて、管理していただくということで1ページのフィルタリング設定及びインターネット利用上の注意ということで、インターネットは便利である一方、有害サイトも多数あるので取り扱いには注意するようにと指導しています。

各学校から、一番関心が高かった部分が、セキュリティの部分でしたので、この協議にかなり時間を要したということでもあります。もう少しフィルタリングが予算いただきまして入るようになりますので、セキュリティ的には、かなり安心して使える状況になると思っています。ICTについては、以上です。

中野市長

はい。詳しく現場でのICT教育に関する状況を説明していただきました。

我々、私の立場から広めて深めて欲しいということですが、分からないなどか詳しい専門的なところはもう先生とかその指導員にお任せしたいと思いますが、教育委員さんこの件で何か質問ありますか。

村上委員

よろしいですかね。一番問題だなと思ったのはやっぱり資料4の先生方が得意ではないという先生が多いのが大変かなと思いました。年齢が上の方はあまりこういうものは使ってないのでわかりにくいと思うのですが、若い先生方はまだいいんですけど、年配の方には、もっと使い方とかをより詳しく教えるような時間を取ってあげて欲しいとこのグラフを見て思いました。

昨日、学校訪問して感じたことは結構、学校でも活用されていましたが、みんなが同時に体育の時間とかに動画を見ようとしたら開けなかったとか結構あったので、そういうふうなところの整備もよろしく願います。

中野市長

はいテクニカルなところもありますので、それも慣れていくことと専門の人が教えていただければと思います。

それでは、時間もだんだん下がってきているので後ほど全体で時間がとれればと思っています。

秘書・総合政策課
池平課長代理

報告事項1、秘書総合政策課の池平です。

私の方からは、次第の3.報告事項、11月2日に東中で行われた東中2年生と市長との意見交換会について報告させていただきます。着座にて説明いたします。

資料6をご覧ください。この意見交換会の実施報告させていただく前に、開催の経過について説明させていただきます。

中学生と市長との意見交換については、地域の未来を担う子供たちの白桦の現状や魅力、

未来像を考えてもらおうと、学校の協力をいただきまして、意見交換会という形で開催しております。1 ページ目は、意見交換会実施要領の資料です。1 点目、臼杵市の魅力を再発見し、まちおこしの方法を考えること、2 点目、学習した内容を工夫して相手に伝わるように発表すること。3 点目、市長と意見交換をする中で、探求的な課題としてさらに発展させ、考え続ける態度を育成することを目的としております。

当日のスケジュールといたしましては、各教室で授業参観をした後に、先生の司会進行のもと、7 グループに分かれて、生徒による発表と生徒からの質問を交えた意見交換を実施したところでございます。

2 ページをお開きください。

みんなが好きな臼杵にするために、臼杵を活性化させるための方法を考えると題して、学習成果を発表し、学習過程で得た課題を市長と意見交換会を通して、地域への興味、関心を深めることに繋がりました。右側、それぞれ 1 班から 7 班からの課題、政策、効果について記載をしております。

生徒からの感想は、市長が意見発表に対して丁寧にたくさんの意見を出してくれて、初めて知ったこともたくさんあり、臼杵に住んでいるのに知らないことを気づかされたとか、魅力を再発見しましたと感想をいただいております。とても有意義な意見交換会となったところでございます。以上で、秘書・総合政策課の報告を終わります。

中野市長

はい、ありがとうございました。私も楽しい時間を過ごさせていただきました。

来年度も、生徒との意見交換会を続けて聞く機会を作りたいと思いますし、いろいろな意見、生活で困ったこと地域のことをよく考え、アイデアのある提案でありますので活かせるものは参考にしてお返ししていきたいと思っております。

それでは次の「その他」ですが、私の方からお願いしましたフッ化物洗口の状況についてです。学校教育課から報告をお願いします。

学校教育課
後藤課長

フッ化物洗口については、以前実施していましたが、新型コロナウイルス感染症の関係で止まっておりました。収まってきましたので、11 月初旬の校長所長会にて再開する方針を伝えております。今、薬剤師等への調整中で今後、児童生徒の希望、全員実施ではありませんので希望調査等行いながら、学校では 2 学期の 12 月中に再開したいと考えております。

中野市長

はい 12 月再開ということで希望者ということではありますが、日頃、給食をべますよね。その後に歯磨きをすることも習慣化していますか。

学校教育課
後藤課長

歯磨きについては、コロナ禍の関係から、なかなか実施できていない実情があります。県の体育保健課等から話を聞きますと、歯磨きよりもフッ化物洗口の方が感染リスクが少ないということをお聞きしているので、フッ化物洗口先を 12 月中に再開と考えています。

中野市長

はい、今まで何度も行ったり戻ったりと正直思っていますが、例えば姫島あたりのデータとか見ますと、幼稚園、保育園時から一貫して行っていると明らかに虫歯の状況は違ってきていると思います。特に臼杵は、虫歯が多いということを知ったので保育園とかにはフッ化物洗口をそれぞれ実施しているので覚えた習慣が学校に行った時に中断するのはどうかと思います。もう一つは、このフッ化物化合物の健康とか医薬的な問題は、クリアしているのでしょうか。私はいろいろ聞いている中では、医者や歯医者によるとフッ化物は健康上問題がないと方向が出ていると思っておりますが、その辺はどういうふうに判断していますか。

学校教育課

指導、説明等は行っていますが、一部、やはりこう警戒感を持っている方がいるのは事実

後藤課長 　　です。ただ、もう市教育委員会の方針として行うことになりますので、現場、各学校は淡々と取り組みを進めていただきたいと考えております。

中野市長 　　皆さんが理解し合って納得してもらうのが一番だと思いますので、できるだけ、広がる方向で意見交換していただければというふうに思いますよろしく申し上げます。
　　その他、何か教育委員の皆さんから、いろんな現場で感じたこと私の方にも言いたいこと等ありましたらこの機会に意見を出していただきたいと思います。

安東委員 　　はい。もう時間の都合でもう箇条書き程度でお話させていただきます。ユネスコの認定おめでとうございます。
　　それに伴って食文化の発信地から、先ほどの説明と関連しますが肥満の子が出ないように運動等をしっかりする機会を与えていただければと思います。
　　それから、教育委員会でも意見を出しました中学生の制服に対するマイノリティーへの配慮ということで、だんだん社会的にも広まりつつあるということがあります。
　　それから村上委員が何回か言われましたヤングケアラーについて8月ぐらいから、県の方も乗り出して調査をしていますが、推定では県内に300人ぐらい対象者がいるのではということで、これは教育委員会だけではなくて関係部署の子ども子育て課だとか、いろんな部署と連携を取りながら、該当する対象者がいましたら多方面からの支援が必要かなと思います。
　　また、部活のあり方、教育長が体育の専門家でございますから充実と、教員の負担ということを両面からお考えいただければと思っております。
　　それから臼杵市の少子化が著しく進んで、昨年は149人の出生だったと思いますが、この人たちが小学校に入学するのが、あと5年後になろうかと思えます。
　　中学校、小学校の規模のあり方だとか、これ全員臼杵高校に行っても、定員満たなくなると、野津高校の存続に市長も、町職員の頃から一緒に野津高校の存続を踏ん張ってきましたが、傾きかけてからはちょっと厳しいと思います。今のうちから長期的に高校のあり方とか、もっと存続の方向に持っていく方というものを考えていかなければならないと思います。
　　また、小中学校のあり方について、個人的に大分大学の教育学部の教授と話す機会が毎週ありますが、その方は、碩田学園それから賀来小中学校の立ち上げにずっと立ち会ってきて、先生にその後どうですかと聞いたら、通学が少し遠くなっただけで、全く問題なく充実した教育ができていてということに自信持って言われていました。追々、地域の方の考えが一番ですけど、予備知識として研究、研修する機会を専門家だとか呼んで有識者の話を聞くことや、先進地の見学もできればありがたいなあと思っております。
　　以上でございます。

中野市長 　　はい。村上さん何か意見はありますか。

村上委員 　　質問をさせていただきます。
　　保護者さんからの意見ですが、コロナ禍の中、母親の育児負担がすごく大きくなって、父親が全然協力してくれないというような家庭が多かったらしいです。その時に、昔ですね野津町の頃、父親の母子手帳というものがあまして、父親は、妊娠中の奥さんは大変だから足をもんであげましょうとかこんな手伝いをしましょうと具体的なものがあつたらしいです。
　　それで、母子手帳、父子手帳までは言わないですが、今、男女参画共同参画だし、子育ては、すごくお母さんが大変だから、お父さんも手伝いましょうという具体的にどうということ

をしたら良いですよというリーフレットとかパンフレットとかそういうのを、市の方で作ってもらえないかという意見が一つありました。

あと、小中学校のお母さん方が、できれば自由に臼杵市内どこでも越境できるような制度にはならないかなという意見を言われました。

自分は今、大規模校にいるけれども小規模校で手厚く見て欲しいと思ったとしても、自分の勤務先があるとか、だから野津地域の人が臼杵に勤務先があるとかでない限りは越境できないみたいなので、そのような意見を小学校も中学校から親からいただきました。小学校であれば野津地域は3校ありますが、野津小学校に行っているけれども、手厚くして欲しいからといっても他の小学校へ簡単に変更することはできません。そこら辺も少し自由に見て欲しいと、中学校も、野津から臼杵に行きたいとか臼杵から野津に行きたいと言ったときも、勤務先がなくても何とかならないでしょうかということで、ここで言って仕方がないことですが、それと制服を臼杵市内同じようにすれば、途中、いじめとかあったとしても一年生はこっちの学校にいたけれど、2年生は他の学校に変わるとかも簡単にできるのではないかなということで、越境を自由にして欲しいという意見を、何人かいただいております。考えていただけたらと思います。

神田委員

市長が言われたとおり、教員の採用については、大変大きな問題で、ぞっとしたのですが、小学校教諭についてはもっとひどくて、今年、二次試験は1.25倍ぐらいですから125人受けて100人通るような状況で、三次試験は多分1.05倍ぐらいだったと思っていて、105人受けて100人受かるような状況。多分これ切ってくると思います。

大変な状況になると思うのですが、我々の子供のころとは違って、子供もやっぱり情緒も体力も家庭環境も、やっぱり多様化してきて、それに1人の先生が対応することが大変難しくなっているような気がして、加えて今アクティブラーニングで主体的な学びなので、結論は一緒としても、途中のプロセスが違えば、1人の指導ではなかなか難しいと思うのです。この中で、学力、教育を維持していくかは、多分、臼杵市で市長が実績としてやられた図書専門員の全校配置、この学力テストを見てもわかるように国語だけではなく標準偏差値をクリアしているような状況であります。同じように、ICTもこうやって支援員を増やすことによってどんどん上がってくると思います。

人の充実というか、人、モノ、カネの充実というのはとても大事で、もちろん大きなことと言えば国の施策かもしれませんが、臼杵市として独自にやれる、図書館専門員の配置のような予算措置をもっと充実させることによって先生方が育っていくし、子供たちが育っていくことだと思います。教育委員会の会議でも言ったのですが、先日、本耶馬溪中学校に行ったら、もう駐車場からどこから、とても綺麗でした。どうしても尋ねましたら、用務員制度ですと、中津市は全校用務員がいますと、それは、学校の校長先生、教頭先生が退職された方が、朝6時半から9時まで、昼の3時から夕方6時半まで働いてもらっていますと、用務員さんとして、昼は自由にしてもいいですと、ただ朝夕でそれと、朝、鍵を開けるのは用務員さんが開けているのだとおっしゃっていました。

教頭先生の負担はかなり減るし、校長先生、教頭先生の経験者ですので、いろんな助けになる、理解も学校にしてくれる。そういうのはとてもいいことだなあと私は思います。

今日、管理職になりたいという先生が減れば減るほど、学校のシステムというのは良くならないと思います。また、全県一区の問題もあるかもしれないですけど、このところを、臼杵市独自として、できることから予算措置していただいて、先生たちを甘やかしていると言う保護者や、市民の方いるかもしれませんが、教室に先生が2人3人いたら、過去の教育とは違って、その多様性にすべて対応していくためには、1人の先生では難しいという理解を、市民の方にも知っていただきたいと、私も現場に入ったわけではないですけど、学校訪問等をして、そう思いますので、何卒その図書館専門員に続く何かしらの大きな政

策、実績が出ていることなので、できていたらなあと思います。またご相談させてください。

中野市長

ありがとうございました。教育長何か意見はありますか。

安東教育長

安東委員からの体力・肥満については、今、各学校1校1実践ということで今、取り組みを行っております。

肥満は確かにありますが、この体力調査見ていただくと、小学校は肥満が多いのですが、体力については、すごく高い。これ、全国と比べるとはちょっとまずいなと思っております。コロナ前の全国の標準ですから、大分県は全国のトップクラスです。大分県を超えている臼杵市は、もっと高いことになりますので、2年前ぐらいは小学校5年生全部1位だったと思います。中学校はコロナで部活動が完全に停止をしていた時期があるので、その影響があるだろうと思います。そのため全国も下がると思いますが、体力のところは、僕の私見ですが、そう心配はしなくてもいいのではないかと考えております。

それから、中学校の制服については先日、校長会でも投げかけていますので、現場のニーズが合えば進めていこうと思いますが、お金の問題もありますので、保護者の意見、子供の意見も吸い上げたいというふうに思っております。それから、ヤングケアラーについては調査をいたしました。気になる件については、すべて対応ができるように関係課ともに共有していますので、これからもやっていきたいと考えています。

それから部活動の問題については、国が急に令和5年度から外部に出すという方針を出しましたので、これについては、拠点型という提案があった後に、全部外部に出すということになりましたので、臼杵としてどうするかとの見解をこれから研究していこうというふうに思っております。子供たちが混乱しないように、しっかりと考えていきたいと思っております。

それから少子化に係る適正配置については、市長に許可をいただきました昨年度から、臼杵市の公立学校あり方庁内検討懇話会というものを2年続けて今開いています。

来週、2回目を開きまして、12月には国東市の小中一貫校の視察にも行こうと思っております。コロナ禍の父親のというのはお答えができません。校区の問題も、いずれ学校のあり方、適正配置と絡めて考えていきたいというふうに思っております。

それから神田委員から出た教員の採用ですけど、もう全体的に減っているのは、もう臼杵がどう頑張ってもというのがあります。ただ臼杵市としては、臼杵に来た若い先生方が、いずれ10年3地域でやっぱり臼杵で教員をしたいなという先生たちを何とか確保していきたいと考えております。実は今年、人事異動で大分やいろんなところに住んでいる先生が臼杵で教育したいと、来てくれた先生もいらっしゃいます。また、人材の配置については、ICT支援員を、3名増やしていただきました。

実は市長の判断で、少人数を下北小、下南小それから野津小に0.5で加配をしていただいております。これは市の単独ですので、今後、学校規模が固まる中で、その中でも少人数でもできるという次の教育を確立する意味では第一歩になったと思いますし、学校訪問では、すごく助かっていると聞いております。少ない予算の中でありませうけれども、しっかり教育に予算をつけていただいていると報告させていただきます。

中野市長

はい。教育委員会だけでなく関連するものについて、ヤングケアラーの件については、子ども子育て課も関連しますし、昨日、会議があった地域福祉計画の中で、こういう問題が新しい課題してありますので、十分検討して、諮問をしていますので、教育と福祉が一緒になって考えないとなかなか難しいと思います。

少子化の問題も現実は大変厳しいですよね。ただ臼杵の場合は出生も少なくなっていますが、移住者は1学年20人ずつぐらい、この10歳から15歳まで300人をよそから来た子供

があります。何とか少しはカバーしていますが、基本的には臼杵市で生まれ育って、住んでいる人たちが満足する環境とか、教育の問題も全体の中で考えていきたいと思っております。

それと私も思ったことですが、南中に行った時に小規模校だからいいとか悪いとかいうものではなくて、子供が生き生きとしているかは、それは先生たちの指導の問題もあると思うのです。ただ人数だけで考えるのではなくて、いろんな角度から検討して欲しいなということを教育委員会にはお願いしております。

学校区、制服の問題は教育委員会の中で十分に話していただければと思っておりますが、先ほど神田先生言った中津市の用務員制度の先生OBは中身が分からないので、ぜひ教育委員会で調べて状況を報告して欲しいと思っておりますし、その辺を踏まえてどういう効果があるのか、これから議論を詰めさせていただきたいと思っております。

それから、これも後で教育委員会の方から報告を受ければ良いと思っておりますが、今2学期から生理用品を配布していますが、これも議会で質問が出て私も答えていますが、2学期を踏まえて、新年度からどういう体制を作るかは検討していきますということを言っていますので、今までの9～11月とか、どのような課題や事情があるのか、その辺のところをどうすれば克服できるのかということについてですね、12月末ぐらいまで私の方に上げていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

多くのご議論が出て活発な総合教育会議でありましたけれど、一応時間が来ましたので、これで今回の総合教育会議を閉じたいと思っておりますが、将来の課題の政策を選びながら進めていきたいと思っております。どうもありがとうございました。事務局に返します。

(事務局)
安東課長

本日は大変お忙しい中、長時間にわたりご協議いただきましてありがとうございました。他に、貴重なご意見いただき、有意義な会議になったと思っております。

今後も引き続き検証を行いまして、臼杵市教育大綱に沿った姿を目指していきたいと考えております。

以上をもちまして、令和3年度総臼杵市総合教育会議を閉会いたします。

本日は大変ありがとうございました。